



4th session

【実録】教室で育むリーダーシップ

誰もが発揮できる リーダーシップを授業で体感

これからの社会で「誰もが発揮できるリーダーシップ」が必要とされるのであれば、教科の中で生徒全員が発揮できるリーダーシップを育む授業が求められてきます。東京都の新教科「人間と社会」の研究開発委員である木村裕美先生（駒場高校）に実践していただいた授業についてレポートします。

授業設計&実践者



駒場高校（東京・都立）
主任教諭
木村裕美先生

きむらゆみ●家庭科教員。全国家庭科教育協会常任理事、東京都高等学校アクティブ・ラーニング型授業研究会所属。1995年都立町田高校定時制教員に着任。農業高校、調布北高校を経て、2015年に駒場高校着任。同年より東京都「人間と社会」の研究開発委員。



学校data

1902年創立／普通科・保健体育科
／生徒数1,008人（男子530人・女子478人）／進路状況（2016年3月実績）大学287人・短大5人・専門学校6人・大専校1人・その他61人

「新しいリーダーシップ」授業に
どう反映させるか？

前ページまではリーダーシップ教育の先進的な取り組み事例を紹介したが、どの学校でも実践できるリーダーシップ授業を具体的に紹介できないかと小誌は考えた。そこで、すでに「リーダーシップについて考える授業」を実践されている駒場高校の木村裕美先生に協力を仰ぎ、特別授業を実施していただいた。

木村先生は22ページで紹介した東京都の「人間と社会」の研究開発委員であり、同教科の教科書編纂において「チームで活動することの意義（リーダーシップ）」を担当されている。今回の特別授業実施にあたっては、木村先生が家庭科で行っている授業をもとに、構成や進め方、リフレクシヨニシートに汎用性をもたせることを意識していただいた。しかし、学校

によって1校時の時間、生徒の状況は異なるため、時間配分やワークシートで設定した設問などは各学校の実情に合わせていただければと思う。リーダーシップはチーム活動の中で育むものであり、また、生徒が仲間との活動の中で気づきを得るものであるため、授業はアクティブラーニング型授業（以下AL型授業）である。この授業形式によって、生徒たちの自主的な発言が促され、学び合いによって新しいリーダーシップを体感できることも期待したい。

特別授業の概要は次ページに、それを木村先生に実践してもらった授業実況を26ページからレポートし、授業を受けた生徒たちの変化や感想も紹介していく。木村先生は2学年の家庭科で実施したが、LHRや、題材の設定によってどの教科でも取り組めるのではないだろうか。ぜひ参考にして実践していただきたい。



「リーダーシップについて考える授業」の概要

授業の目標

- ①リーダーシップの意義について理解する
- ②異なる意見や他者の考えを受け入れ、自分の考えを広げる
- ③リーダーシップが発揮できるようになると、自分の人生においてどのように役に立つのか考える

指導案

下記は木村先生に作成いただいた指導案の要約だ（指導案の詳細はページ下のダウンロードサイトから入手できる）。指導案は50分授業で2校時の設定で作成している。内容、時間配分とも、各学校の授業時間や実施する教科の実情に合わせて応用してもらいたい。この指導案に沿って、実際に駒場高校で授業を行ってもらった。具体的な展開は次ページ以降の授業実況で詳しくレポートする。

● 1 時間目

| 展開 | 時間配分 | 内容 | |
|--------|------|---|---|
| 1 導入 | 5分 | 席決め(教室入口でくじ引き) / 授業の目的解説 | |
| 2 現状把握 | 2分 | シートの「学習を始める前に」記入(RS) 「チーム活動で発揮するリーダーシップとはどういうことなのか?」 | |
| 3 展開 1 | 3分 | 導入ワーク説明、目標記入(WS) | |
| | 8分 | 導入ワーク(ペーパータワー作成→チーム対抗でタワーの高さを競う) | |
| | 8分 | 導入ワークに対して「どうすればチームの力を引き出すことができるのか?」 ①個人で考える(WS) ②班で共有 ③クラスで共有 | |
| | 2分 | ショートレクチャー | |
| 4 展開 2 | 10分 | Q1「今までにリーダーシップがあると感じた人は誰ですか? また、その人のどのようなところにリーダーシップを感じましたか?」 ①個人で考える(WS) ②班で共有 ③ホワイトボードにメンバーの意見を書く ④ホワイトボードを黒板に貼る ⑤クラスで共有 | |
| | | 2分 | ショートレクチャー |
| | | 10分 | Q2「次の文章を読み、文化祭でのリーダーシップの発揮の仕方について考え、議論してみよう。」 【ある高校の文化祭の準備のできごと】 ①個人で考える(WS) ②班で共有 ③ホワイトボードに意見を書く |

● 2 時間目

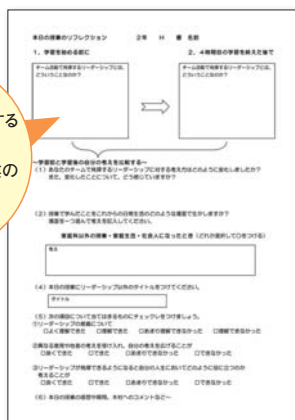
ダウンロード可

| 展開 | 時間配分 | 内容 |
|-------------------|------|---|
| 5 展開 3 (1時間目のつづき) | 3分 | Q2まとめ直し |
| | 5分 | 発表班に移動する ④A~Dを誕生日順で決める ⑤班での意見交換の中で、特に他の班に伝えたいと考えたことを1分間で発表するための準備 |
| | 15分 | Q2の発表(元の班でまとめた③の内容を、新しい班のメンバーに向けて発表する) |
| 6 展開 4 | 2分 | Q3「あなたは次の場面で、どんな選択をしますか?」 【ある社員のチーム内での行動についての例】 ①個人で考える(WS) |
| | 3分 | ②班の再編成 |
| | 4分 | ③意見交換 |
| | 10分 | ④班の代表者が発表 |
| | 3分 | ⑤話し合って意見の変化や気づきがあったか? |
| 7 まとめ | 5分 | リフレクション(RS) 「チーム活動で発揮するリーダーシップとはどういうことなのか?」を改めて考える |

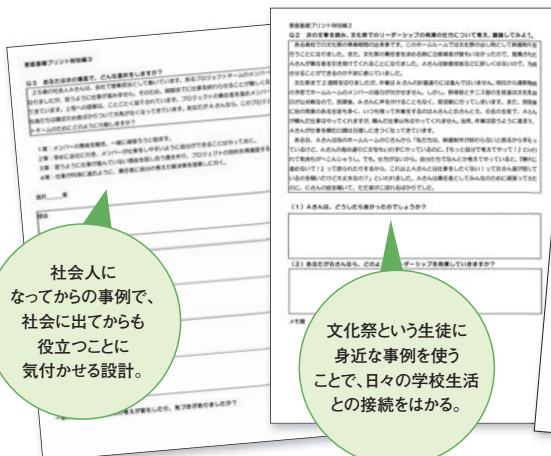
ワークシート・リフレクションシート

授業で生徒が使用するのは以下のワークシートとリフレクションシートだ。ワークシートは各展開ごとに生徒が個人の考えを記入する欄、班で話し合った内容をメモする欄を設けている。リフレクションシートでは授業前後の変化を気付かせ、今回の授業を今後の生活に活かす目標も設定させることとした。

「チーム活動で発揮するリーダーシップ」についての考えを、授業の前後で記入させる。



リフレクションシート(以下RS)



ワークシート(以下WS)

社会人になってからの事例で、社会に出てからも役立つことに気付かせる設計。

文化祭という生徒に身近な事例を使うことで、日々の学校生活との接続をはかる。

「この授業の目標」を最初に明記することで、授業の到達点を明らかにしている。

※木村先生は家庭科の授業で行ったため、家庭科での意義を記しているが、汎用性には影響はない。

自分と仲間の、違いと役割に気付くワーク

「リーダーシップについて考える」授業を、実際に駒場高校にて実施した模様をレポートする。チーム形式の授業で行う導入ワークや設問を通して、生徒たちはリーダーシップについてどんな気づきを得ていくか読み取ってほしい。

展開 1: 導入ワーク

導入ワーク実施 (ペーパータワー作成)

20枚の用紙で、のりやはさみを使わずに、5分間でいかに高いタワーを作れるかの班対抗。



揺らさないで～



はさみ使わなければ
切り目入れて
いいんじゃない?



これいけるん
じゃね?



そーと!
((そーと!))



えーと、
こうして…

すべての活動に対して、木村先生はストップウォッチを使用して時間を区切り、生徒の活動や思考に合わせ、テンポを考えている。



導入ワークの 目標記入

導入ワークとして実施する、ペーパータワーの作成について、自分が班に貢献する目標を記入(WS)。



社会の急速な変化で、他者との協力がより必要とされ、それによって新しい価値が生み出されていることについて解説。



他者との協力が必要だという説明を受けて、導入ワークの際に班にどう貢献をするかの目標を記入。

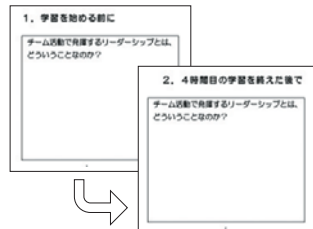
生徒たちの回答例

- できるだけ意見をたくさん出す。
- みんなが話せるようにする。
- 笑顔でチームの雰囲気を良くする。
- 良いアイデアを出す人がいたら、「それはいいね」という。
- 進んで作業をする。
- 慎重に話しあってから進めるようにする。
- 倒れても、「次やろう!」と盛り上げる。
- 人の話をよく聞いて、理解しようとする。
- 時間を管理する。
- 指示されたことを一生懸命やる。

現状把握

授業前の 現状での考えを 記述

リフレクションシートに書かれた「チーム活動で発揮するリーダーシップとは、どういうことなのか?」の問いに、現段階での考えを書く(RS)。



RSには授業前後の変化を意識できるよう、同じ設問を設けており、まず授業を受ける前の考えを記入する。



普段でも使っているはずの「リーダーシップ」という言葉に対して、今までの自分の考えを記入する生徒たち。



2分と短い時間だが、この形式の授業に慣れているのか、生徒たちはよほどみなく自分の意見を記入していた。

生徒たちの回答例

- チームをひっぱる。チームをまとめる。チームの先頭に立つ。
- 人を平等に扱える。広い視野で物事を考えられる。
- みんなの意見を聞きつつ、話をまとめてそれを率先して実行できる人。
- 意見が分かれたときにまとめたり、どっちがいいか採用したりすること。どんなことをするか予定する。
- 指示する。適切な判断をする。
- メンバー一人ひとりの意見をうまく引き出せること。
- スムーズに物事を進めていけるよう、サポートすること。人の意見に耳を傾けること。
- チームの中心となり、周りの意見を聞き、柔軟で臨機応変に対応する。

導入

席・班決め 授業目標の解説

今日の班は今日だけのチームとするため、くじ引きで決められた席に着席。この日は40人の生徒を4人ずつ10グループに分けた。



教室に入る際に、席番が書かれたボールのくじを引く。班に男女が均等になるよう、男女別のくじとした。



くじ引きもイベント的に楽しみながら行う生徒たち。黒板に貼られた座席表と、自分の番号を照らしながら着席していく。



予めワークシートとリフレクションシートが置かれた席に全員着席。授業で何が始まるか期待している様子。



今日の授業の目標(25p参照)を木村先生から説明。持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動ができるようになるために、リーダーシップについて考える授業であることを生徒に知らせる。



展開 3：設問 2

学校行事での事例について考える

ワークシートに書かれた、ある高校での文化祭準備での出来事について、自分の意見を記入(WS)、班で共有し、ホワイトボードにまとめる。

設問(概要)

ある高校のホームルームでは、文化祭の出し物で映画制作を行うことに。文化祭の責任者は立候補者がなく、推薦でAさんに決定。Aさんは映像技術に詳しくなく不安に感じていました。

みんなが非協力的で、作業はAさんの計画通りには進みません。放課後に作業をするのはAさんとBさんと5、6名の生徒だけ。そのメンバーも頼んだ仕事しかやってくれません。

ある日、Aさんは別のホームルームのCさんから、Bさんたちが「指示通りにやるとAさんに「もっと自分で考えてやって!」と言われ、自分たちで考えてやると、「勝手に進めないで!」と怒られるから、これ以上Aさんとは仕事をしたくない!」と話しているのを心配されました。Aさんは責任者として頑張ってきたのに、ただ涙がこぼれるばかりでした。

問1) Aさんは、どうしたら良かったのでしょうか?

問2) あなたがBさんなら、どのようにリーダーシップを発揮していきますか?

※設問の全文はWSにあります。

ダウンロード可



今までの活動同様、まず個人の意見をWSに記入し、その後班で意見を共有。



問1、問2それぞれについて、班でまとめた意見を、ホワイトボードに記入。

2時間続きの場合はここで休憩

展開 2：設問 1

みんなの考えを共有する

リーダーシップに対するみんなの考えを共有したうえで、全員が発揮できるのがリーダーシップであることを先生から解説。

各班の回答例

- みんなから愛されている。他人が気付かないことに気付く。どっしりと構えている。意見をまとめる能力がある。信念をもって行動できる。
- コミュニケーションをとれる人。人に仕事を託せる人。
- アメとムチを使い分けて可能性を引き出す。人のことをしっかり考え、行動できる。雰囲気をつくる。カリスマ性がある。
- 失敗しても、安心して作業を行える環境をつくってくれる人。自分の考えだけでなく、周りの考えを聞いて共有でき、自分の考えに固執しない人。
- 謙虚さと積極性。状況把握。周りの雰囲気をよくする。



みんなの意見を共有したうえで、リーダーシップを発揮するのは特定の人ではなく「自分」であること、難しいことではなく自分の良い点を学校や家庭で活かすことがリーダーシップであることを解説。



今まで思っていたリーダーシップと異なる概念に、真剣に耳を傾ける生徒たち。

リーダーシップの具体例を考える

「今までにリーダーシップがあると感じた人物は?」「その人のどのようなところにリーダーシップを感じたか?」という問いに対して、個人で考え(WS)、班で共有し、ホワイトボードにまとめる。



現代社会は決定権をもつ人の判断だけでは時代のニーズに応えられないこと、チーム全員がリーダーシップを発揮することが求められていることを解説。そのうえで、WSの設問に臨む。



具体名がわからない場合は、どんな人なのかいメージを書いてみる生徒たち。



それぞれの考えを班で話し合い、共通点はどんな点かをみんなで考える。



班で考えたリーダーシップについて、クラス共有のためにホワイトボードに記入。

クラス全員で意見を共有するために、班のホワイトボードを教室の前に貼る。



導入ワークの振り返り

導入ワークに対して「どうすればチームの力を引き出すことができるのか?」を、個人で考え(WS)、班、クラスで共有。



班でペーパータワーを作ってみて、どうすればよい結果を出せたか考える。



班内で一人ずつ意見を出し合い、班の意見をまとめていく。



班でまとめた意見をそれぞれ発表して、「チームの力の引き出し方」について、クラスで共有する。

各班の回答例

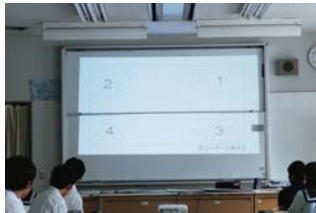
- 一人ひとりが意見を言えるようにする。
- 全員が意見を言えるように役割分担する。
- 意見を共有することが大事。
- 適材適所で得意分野を分担する。
- チームの方向性を理解したうえで取り組む。
- 全員が意見を言いやすい環境をつくる。
- 仲間の意見をまとめて、潜在能力を引き出す。
- とりあえず落ち着く。
- 一人ひとりが役割をもって、全体で話し合えることを考える。
- うまく質問して意見を出し合えるようにする。

どの意見も正しいよね!



同じ意見同士で
班を再編

同じ選択肢を選んだ人同士が集まって、新しい班をつくる。
※再編の行動にもリーダーシップが発揮できるよう自主性に任せる。



先生からは、同じ選択肢同士で集まることのみ指示。自分たちのリーダーシップで4つの班をつくるよう伝えていた。



選択肢ごとに分かれることによってそれぞれの案に何人が回答したかがわかる（結果は下記参照）。



話し合いがしやすいように、人数が多かったグループは4・5人ずつに分かれて着席する。
④は一人班になった。

再編の結果

- ①⇒4人
- ②⇒15人(3グループに分かれる)
- ③⇒20人(4グループに分かれる)
- ④⇒1人

社会で直面しそうな
事例について
考える

ワークシートに書かれた、ある社会人の会社でのできごとについて、自分だったらどうするか、4つの選択肢から選び、理由を記入(WS)。

設問

25歳の社会人Aさんは、会社で営業担当として働いています。あるプロジェクトチームのメンバーになりましたが、思うように仕事が進みません。そのため、期限までに仕事を終わらせることが難しくなっています。上司への提案は、ことごとく却下されています。プロジェクトの責任者を含めメンバーの社員たちは最近ため息ばかりついて元気がなくなってきています。あなたがAさんなら、このプロジェクトチームのためにどのように行動しますか？

選択肢

- ①メンバーの愚痴を聞き、一緒に頑張ろうと励ます。
- ②早めに会社に行き、メンバーが仕事をしやすいように自分ができることはやっておく。
- ③思うように仕事が進んでいない理由を話し合う場を作り、プロジェクトの目的を再確認する。
- ④仕事が円滑に進むように、責任者に自分の考えた解決策を提案しに行く。



社会人の行動は未知の世界だが、生徒たちは想像をふくらませて、自分が選ぶ行動とその理由を記入していた。

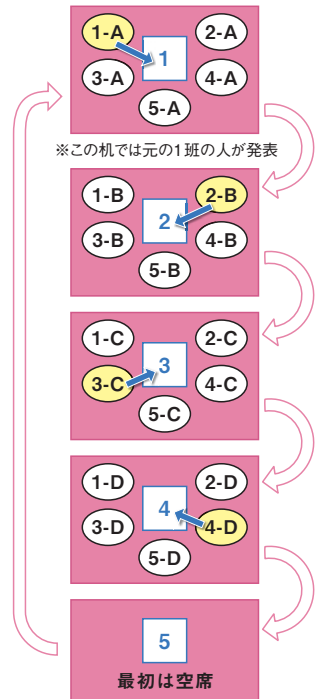


時間はわずか2分だが、ここまでで求められていることを理解しているのか、ほとんど生徒がスラスラと記入していた。

元の班でまとめた
内容の発表

机に、元の班で作成したホワイトボードがあった人が、班でまとめた意見を新しい班のメンバーに対して発表する。終わったら隣の机に移動し、最終的に全員が発表することになる。

机を移動しながら発表する
※黄色が発表者



例) ①は元の班で書いたホワイトボード



発表を安心・安全の場とするために、拍手でスタートし、人の発表に耳を傾けることを指導されてスタート。

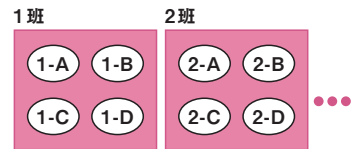


聞いている生徒たちも、真剣に発表者の話を聞いていた。

発表班に班替え

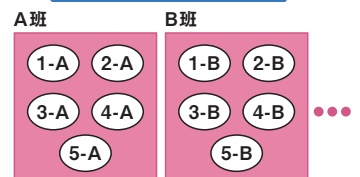
各班で話し合った内容を、他の班に発表するための班替え。班員をABC Dに分け、A同士、B同士などで組み替える。

元の班：4人組×
5班×2ブロック(40人)
※それぞれ4人をA、B、C、Dに分ける



例) [1-A]=1班のAさん

新しい班：5人組×
4班×2ブロック(40人)
※アルファベット同士で組み直す



例) A班=各班のAさんの集団



新しくできた班で、元の班の代表として意見を発表する。全員が自分の班の意見を語れる状態になっていることが大事。



各班で出した意見はそれぞれ。自分の班がなぜこの意見になったか、説得力をもって説明しなければならない。



まとめ

リフレクションシート
の記入

授業の振り返りをリフレクションシートに記入。「チーム活動で発揮するリーダーシップとは、どういうことなのか？」の問いに対する自分の変化を考える(RS)。



授業の前後で自分の考えがどう変わったか、学んだことを今後の生活にどう活かしていくかを考えて記入する。

授業を終えての「チーム活動で
発揮するリーダーシップとは
どういうことなのか？」に対する
生徒たちの回答例

- 他人との関わり方、つきあい方を考えること。
- 全体を考え、自ら行動する。
- 先頭に立つだけでなく、しっかり意見を共有することができる人。
- 全員が意見を出し合い共有できる環境をつくり出せること。
- 違う見方で物事をたくさん見て、その中でベストな選択を選び、それをチームで実行すること。
- リーダーシップとはひとりだけがものじゃなくて皆がもつもの。
- 自分と他者との関わりで問題を解決すること。
- 人と協力することで、今自分もてる力以上の力を生み出せる人。
- ひとりで抱え込まない、そしてひとりに押しつけない。

今後の授業でも、常にリーダーシップを意識させていただきます



人の意見を
聞いての気づきを
考える

人の意見を聞いて考えが変わったかどうか、新しい気づきがあったかを個人で振り返る(WS)。



仲間や他の班の意見を聞いて考えが変わったことなど、気付いたことをワークシートに記入。



どれも正解でリーダーシップの発揮の仕方はいろいろあることを解説。リーダーシップを発揮する力を伸ばすには、①目標共有、②率先垂範、③同僚支援の3つが必要であることを説明。



各班のまとめ例

- ①を選んだ班：本音でぶつかることでまずいい雰囲気づくりが必要だから。
- ②を選んだ班：自分が今までと違う行動をとることで、周りにいい影響を与えられるから。
- ③を選んだ班：みんなで状況を共有して明確にして、具体策を連携して考えることが大事だから。愚痴を言っても始まらないし、②と④は個人で抱え込んでいる。
- ④を選んだ生徒：大勢で話し合うことが大変な状況なので、まずは効率を考えて自分の意見をリーダーに伝える。採用されなくても今後の参考になるかもしれないから。



どれも正解だね!

展開4：設問3

班でまとめた意見を
代表者が発表

班でまとめた意見を代表者が発表。自分たちがその選択肢を選んだ理由を論理的に発表できるかがポイント。



班の代表が自分たちが選んだ理由を説明。他者の選択も尊重できる姿勢が大切だ。



他の班の意見も真剣に聞く生徒たち。理由を聞いて人の考えに納得する場面も。



一人だけの生徒も臆せず自分の意見を堂々と発表していた。正解がない問いなので、どの選択肢でも、自分の意見を説明できることが狙いだ。

新しい班で
意見交換

新しい班で、選択肢を選んだ理由を意見交換。同じ選択肢でも異なる理由があることを認識。



「みんななんでこれにした？」とお互いの意見を聞きながら、班での意見をまとめていった。



同じ選択肢でも、自分がすべき役割から選んだ生徒、消去法で選んだ生徒など、理由は様々だった。



④を選んだ生徒は一人だったため、木村先生が相手となり、先生に対して選んだ理由を説明していた。

授業後の生徒たちの変化

「リーダーシップについて考える授業を通して、生徒たちは「リーダーシップ」についてどのように考えが変わり、どんなことに気付いたのでしょうか。生徒たちのリフレクションシート、座談会、授業後に行ったアンケートを通してその変化をみていきましょう。

授業の目標を達成し

自分の言葉で語る生徒たち

今回の授業のリフレクションシートには、生徒たちの理解度を測るためのさまざまな仕掛けがある。

まず、「チーム活動で発揮するリーダーシップ」についての回答の変化については、授業実況の最初と最後の部分で紹介したが、さらに、自分の考えの変化についての考察も記入させ

ている（左図上段）。「リーダー」と「リーダーシップ」の違いについて、授業後も混同している生徒がいたものの、回答を見るとおおむね理解し始めていることがわかる。

また、今後の行動目標について尋ねた設問（左図下段）では、学校、家庭、社会に出てからと、様々な場面でのリーダーシップを応用できる可能性を見出している。知識として留めるのではなく、日常に活かすことを意

識させられたはずだ。

「今日の授業にリーダーシップ以外のタイトルを付けるとしたら？」の設問（下図）では、生徒たちが自分の言葉で「権限のないリーダーシップ」を語れるかをみている。驚いたことに、授業の意図を理解しつつほとんど同じ回答はなく、十人十色のタイトルを付けたことだ。生徒たちは我々の予想以上に、自分の中で消化していたようだ。



リフレクションシートより

授業前と授業後で、「チームで発揮するリーダーシップ」について考え方がどのように変わったか？

誰もが持てる力と気付いた意見

- 自分だけやるものではなく、みんなでやる！
- チームだけでなくチームの外にいる人や、とにかく広い視野がある人のことだと思いました。
- 自分だけでなくチームのメンバーを巻き込んでチームをまとめていけるといいと思った。

全員が発揮することでチーム力が上がることに気付いた意見

- リーダーシップは皆がもってこそ良い集団になるのだと思うようになった。
- 一人ひとりで抱え込まなければより良いものができると思う。

リーダーとリーダーシップの違いに気付いた意見

- まとめる、仕切るだけがリーダーではない！
- 決してひとりがリーダーではないということに気づいた。
- ある特定の人を持っているものと思っていたが、個人個人の中にもあると思った。
- リーダーはひとりだけではないのだと思った。
- 策を練ったりする中心人物と考えていたが、全員の能力を引き出すのもリーダーシップとわかった。

授業で学んだことを、これからの日常生活のどのような場面で活かしますか？

学校生活で

- 部活のとき、部長・副部長がいるけれど、その人たちに頼るだけではなく、「部長・副部長でない」ということを活かして意見をしていく。
- 他の授業などで発表する機会でも、リーダーシップをとることによって円滑に話し合いを進められる。

家庭生活で

- 家庭生活でも何人かで作業することはとても多いので、全員がリーダーシップを発揮できたらとても効率が良いと思う。
- 今まで家では空気のような存在だったので、しっかり役割意識を持っていきたい。

社会に出たとき

- 社会人になって会社で様々な人と関わって働くときに、そのまま使える考え方だと思った。
- 社会人になったら自分のしたことに責任をもたなくてはならず、上司に言われたまま動いて失敗して怒られるより、自分の考えでやってミスして怒られた方が良く考えた。
- 明るく場を盛り上げ、周りの人の仕事が円滑に進むようサポートできる社会人になりたい。
- 社会人になったとき、知らない人と接することが今以上に増えると思うから、そういうときの行動の仕方が大切だと思う。
- 社会人になったとき、人の適材適所を事業につなげて、会社全体の利益にする。

今日の授業にリーダーシップ以外のタイトルを付けるとしたら？

- 「共有することの大切さ」
- 「一人ひとりにできること」
- 「皆違って皆良い」
- 「みんなが輝くために！」
- 「チーム活動の中の自分」
- 「主体性と協調性」
- 「みんなの中のリーダーシップ」
- 「個々の考え」
- 「他者との関わり」
- 「話し合いを円滑に進めるために必要なこと」
- 「コミュニケーション力」
- 「一人ひとりのリーダーシップ」
- 「可能性を引き出す」
- 「人間力」
- 「観察力」



石橋里華さん



村山友哉君



小野由美さん



櫻井幹也君



授業の感想・座談会

今回の授業を体験した駒場高校のクラスを代表して、4人の生徒に授業の感想や気付いたことについて語り合ってもらいました。

Q…今まで「リーダーシップ」についてどう考えていましたか？

村山君▼真剣に考えたのは今日が初めてでした。でも部活でもキャプテンに意見を言ったときに、意見を聞いてくれるリーダーもはね返すリーダーもいて、求められるリーダー像についてなんとなく考えていました。

櫻井君▼今の担任が、何事も生徒自身に考えさせて決めるように促してくれる先生で、リーダーシップは「み

んなでどこまで協力できるか」なのかと思いました。今日の木村先生も「考えなさい」じゃなくてみんなが考える意欲を高めるように話してくれます。これからはそういうやり方が必要になるんだなと思います、お手本にできると思いました。

石橋さん▼中学までは自分がリーダーとしてみんなの意見を引き出していました。が、駒場高校の人は一人ひとりがしっかりしているので、今までのようなやり方はなくて済みます。だから逆に、ここで自分がどうすべきか模索中です。

小野さん▼中学で部活の部長をやっているときに、顧問の先生から「周りをよく見る」と言われ、経験を通して、リーダーシップは一人だけの力でやるのではないと学びました。

Q…「権限のないリーダーシップ」について授業で学ぶことにどんな意義を感じましたか？

櫻井君▼普段の生活で友達と「リーダーシップってこうだよ」と話したりしないので、自分の考えだけに固執してしまいましたが、こういう場があるとみんなの考えを聞けて良かったです。

小野さん▼私もリーダーシップについて人の意見を聞くことで、世界が広がった感じがします。



石橋さん▼今日の授業は班で話し合

つてリーダーを決めて発表するなど、実践的にリーダーシップを体験できるやり方だったので、言葉だけの理解よりわかりやすかったです。

Q…今日の授業でリーダーシップを発揮できましたか？

櫻井君▼僕はできなかったです。高校に入ってからみんなの前で発表したり、引っ張る立場じゃなくて、場の雰囲気づくりをしているので。

村山君▼櫻井が雰囲気づくりをしているのもリーダーシップなんじゃない

かな？ 自分も中学まではリーダー的存在だったのが、高校に入って自分より勉強もサッカーもできる人がいっぱいいて「何も通用しない」という状況におかれて。でも部活で雰囲気を良くすることなら、上級生も巻き込んでもきたし、それが権限のないリーダーシップなのかなと。

櫻井は普段から、クラスの話し合いが行き詰まったときに、面白いことを言って場を和ませたり、勉強できないんだけど「できないこと」をいい雰囲気づくりにつなげているから、それもアリだと。

(同爆笑)

櫻井君▼照れるな(笑)。いい感じにまとまってきた。

小野さん▼今日は「設問3」で一人チームになってしまったので(29ページ参照)発表しましたが、普段は人に任せてしまうので、場によって役割が変わる感じですね。

石橋さん▼うちのクラスはどんな班になっても気付いたらリーダー役をやっている人がいます。自分もメンバーを見てどうするか役割を考えるので、特定のリーダーがいなくてもリーダーシップは成り立つような気がします。

「リーダーシップについて考える授業」が生徒にもたらす変化とは？

チームの中で、自分の役割を見出し始めた生徒たち

「リーダーシップについて考える授業」がもたらした変化とは？

前ページのように2時間の授業の中でも生徒たちの気づきは多かったことがわかります。この授業を受けて、リーダーシップを意識して活動した後、生徒たちにはどのような変化が期待できるのでしょうか？

今回の授業後に、編集部が生徒たちにアンケートを行った（左のグラフ）。特筆すべきは「授業前にリーダーシップを発揮したいと思っていた」について、「そう思う」と答えた生徒が約半数だったのが、「授業後にここで学んだリーダーシップであれば今後も発

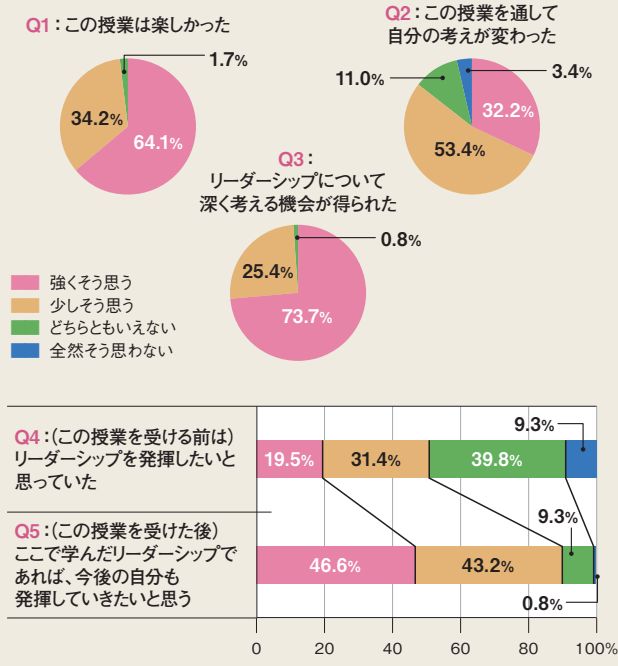
揮していきたい」では9割近くに増えたことだ。これについて木村先生はこう考察する。

「授業前の生徒たちは『リーダーシップは選ばれた人や能力のある人が発揮するものだ』という思い込みがあったようです。この授業を受けて、『自分もリーダーシップを発揮していんだ！』とわかることで、これからチームで活動する際に、安心して行動で

きるようになるのではないのでしょうか？」

木村先生は3年前から同様の授業を行っている。実施後、普段の授業でも常にリーダーシップを意識させることを繰り返した結果、生徒たちが協働の中で自分軸をもてるように成長していったという（左図参照）。生徒たちが属するチームは状況によって変わるが、この授業をきっかけに、どんな状況でも自分の役割を見つけられる力を育てることを期待したい。

駒場高校の授業後アンケートの結果



昨年授業を受けた生徒の、1年後の発表

駒場高校で昨年度に「リーダーシップについて考える授業」を受けた生徒たちが、学年の最後の授業で行った振り返りで作成したKP法（紙芝居プレゼンテーション）での発表内容



授業を設計・実施した 木村裕美先生の感想



私自身が「権限のないリーダーシップ」を知ったときに、自分の人生が明るくなったように感じました。以前は、自分は与えられた仕事をきちんとやってさえいれば良いんだと思っていましたが、自分でもリーダーシップを発揮できると知ってから新たな扉を開けることができました。その扉を生徒たちには高校生のうちに開けてもらえたらと思っています。

今回の授業は、A・L型授業に慣れている本校の生徒向けの内容になっていますが、設問の題材やWSは、生徒の状況に合わせて作り変えが必要ですが、しかし目的は同じで、「自分が発揮できるリーダーシップがある」と認識させ、一歩前に進みたくする主体性を引き出すことです。

リーダーシップは1回の授業で腹落ちするものでなく、理論を頭に入れた上で行動し続ける必要があります。今後の授業や学校生活の中で、常に「この活動の中であなたのリーダーシップは？」と問いかけていかなければなりません。そして、自分の行動でチームに変化をもたらすことができたとき、自分の人生がより良くなったと実感できると思います。



六郷工科高校 (東京・都立)

学校 data

2004年創立／全日制(工学科)、定時制(普通科・生産工学科)／生徒数560人(男子471人・女子89人)／進路状況(2016年3月実績)大学13人・専門学校27人・職業訓練校5人・就職108人・その他11人



ペーパータワーのワークでは工科高校らしい、独創的なタワーを作る生徒も。



生徒が設問内容を頭に入れやすいよう、イラスト化したわかりやすい資料を準備。



初めて聞くリーダーシップの概念に興味を示し、真剣に聞く生徒たち。



生徒たちの話が脱線しないよう、話し合い中に先生が適宜声をかけていく。

他校で実施してみた「リーダーシップについて考える授業」

木村先生の指導案をもとに、東京都高等学校アクティブ・ラーニング型授業研究会に所属する田中駿一先生が、専門高校の1学年で実施した様子をレポートします。

リーダーシップへの関心が上昇した工科学校の生徒たち

六郷工科高校は、実習以外の座学の時間で居眠りしている生徒が多い実情を抱えている。また、1校時が45分授業のため、田中先生は自校向けに設問の数を減らし、生徒がイメージしやすい事例に差し替えた指導案とWSを作成した。

具体的には、①リーダーシップに必要な三要素の解説を冒頭で伝え、②それを自分の経験とつなげられるよう、最近行った、カレールを作る校外活動で例えるワークを入れ、

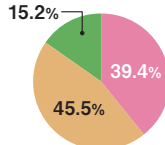
③駒場高校の「設問2(文化祭の準備)」と「設問3(社会人のプロジエクト)」を合体させ、文化祭の事例で自分の行動を選択肢から選ぶこととした。

実際に授業を行うと、②の場面では、「自分はカレール作りで自主的に野菜を切ったからソッセンズイハン(率先垂範)！」など、理解したこと(率先垂範)！」など、理解したことを次々に口に出したり、発表で積極的に手を挙げて答える生徒も多数いた。③では、登場人物の関係性を先生が予めイラスト化してスライドで見せ、記述式ではなく選択肢から選ぶため、45分の授業でも生徒たちが無理なく対応できていた。

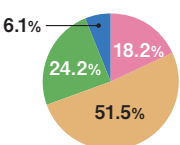
駒場高校と同様に行った授業後アンケートでは(下図)、「リーダーシップを発揮したいか」の設問で「そう思う」の回答率は、授業後に3割以上増加し、駒場高校と大差なかった。進学校、多様校問わず、「リーダーシップについて考える授業」により、生徒たちがチームの中で「自分の役割を果たしたい意欲」を育てると言えるのではないだろうか。

六郷工科高校の授業後アンケートの結果

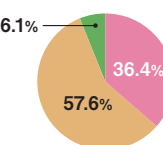
Q1: この授業は楽しかった



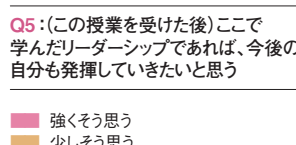
Q2: この授業を通して自分の考えが変わった



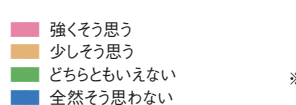
Q3: リーダーシップについて深く考える機会が得られた



Q4: (この授業を受ける前は)リーダーシップを発揮したいと思っていた



Q5: (この授業を受けた後)ここで学んだリーダーシップであれば、今後の自分も発揮していきたいと思う



※六郷工科高校の指導案とWSはホームページからダウンロードできます。

ダウンロード可

編集部まとめ

リーダーとリーダーシップの違い、誰もが発揮できるリーダーシップ。これら大人でも理解することが難しい考え方を、果たして2時限という限られた時間で生徒たちに伝えられるのか？ この難しい問いに対して、駒場高校の木村先生は、「生徒に考えさせる」ことで違いに「気付かせる」授業を展開。六郷工科高校の田中先生は、「生徒の身近な体験に例える」ことで、短時間で生徒に多くの変化をもたらしました。しかし、昨年度から取り組みを続ける木村先生は「問いかけ続けることが大事」と繰り返し言います。教室で、授業で、部活で、教師が問いかけ続けることで、生徒はより強いリーダーシップの輝きを放っていくのではないのでしょうか。

田中駿一先生の感想



リーダーシップへの興味や反応が予想以上に高かった

本校の生徒の場合、先に言葉の定義を伝えないと、授業の目的を理解しにくいいため、展開を入れ替えてみました。普段の日本史の授業でもグループワークで話し合いはしています。ただ、生徒が自身の生活と相関性が低いと認識しているように見受けられます。今日の授業ではリーダーシップが自分に関係があると気付き、楽しそうに議論していました。リフレクシオンシートでもリーダーとの違いを正しく理解していました。「インターンシップに活かしたい」と答えた生徒がいたように、今後の学校行事と絡めてずっと伝え続けていきたいと思えます。